

2023（令和5）年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1495600627	事業の開始年月日	令和3年10月1日
		指定年月日	令和3年10月1日
法人名	白山福祉会		
事業所名	カーサしんゆりフランシア		
所在地	( 215-0026 ) 神奈川県川崎市麻生区古沢189		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和5年10月4日	評価結果 市町村受理日	令和6年4月1日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・個別ケアの充実に力を入れている為、ご利用者様が個々に思い思いの生活を送れるよう、敢えて全員合同でのプログラム等は最小限に抑えさせて頂くとともに、画一的な集団ケアにならぬよう支援しています。

・食べる楽しみを重視している為、ホテルオークラを経て富士ビューホテルの料理長を務めていた和食料理人（調理師、ふぐ調理師免許所有）を常勤職員として配置しており、四季折々に合ったお食事の提供に努めています。

※料理人の公休日には介護職員が調理しています。

・音楽学校卒の職員もおり、カラオケでは無くピアノやギターの生伴奏での通常の介護施設レベルでは提供しづらい音楽レクリエーションも日常的に行っています。それ以外のレクリエーションプログラムについても、各職員がそれぞれ利用者様の笑顔を引き出すべく日々取り組んでおります。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵠沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年10月23日	評価機関 評価決定日	令和6年1月24日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、小田急線「新百合ヶ丘」駅から徒歩約10分の交通の利便性が良く、麻生区役所・消防署・警察・郵便局が徒歩圏内にあり社会資源に囲まれた立地となっています。同一建物内に小規模多機能施設もあります。

<優れている点>

理念を実現する為に10項目の行動指針を示しています。管理者はそれを具体的な例で職員に落とし込み、理解しているかなど話し合う機会を年に数回設けて確認しています。法人内6事業所のデータベースを共有し活用しています。一人ひとりへの対応を重視し、その人ごとの最適な支援方法を試行錯誤を繰り返しながら確認しています。また、「地域で顔が見えるグループホーム」を目指して、運営推進会議や町会長主催の古沢地区元気会を積極的に活用し、地域との連携に努めています。事業所紹介や見学、介護相談会の開催など多岐にわたり活動しています。ポリファーマシー対策・便秘対策・食欲減退者へのエンシュア活用など、提携医師と密接な連携ができています。肉好きな無歯顎の利用者にも家族や医師と相談し、大好きな肉料理をミキサー食にせず提供し「満足感を得てもらおう」事を大事に利用者の希望を叶えることを大切にしています。

<工夫点>

カルテの共有システムを使用し、家族は利用者の様子を常時知ることができています。毎月のフロア会議で、全利用者の1ヶ月の状態を共有し記録し、それをモニタリングの基礎データとして活用しています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	カーサしんゆりフランシア
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	自身で考え業務に当たる職員については理念も自身で情報を得ているが、受け身の職員については殆ど理念を把握しておらず管理者責任を問う声多数。介護職、CM兼務であったとは言え、自身の至らなさを感じる（9月～介護職は外れた為、随時面談実施予定）	事業所理念「自らが受けたい支援を創造する」を具現化する為に10個の行動指針を示しています。行動指針を具体例で職員に説明し確認する機会を年4回設け職員へ周知しています。職員間で日常支援の意思の統一に努めています	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナの影響により実施できていなかったが、4月よりご家族様の面会を再開、事業所での運営推進会議も8月より再開している。	「顔の見えるグループホーム」を目指しています。運営推進会議や町内会の催事、老人会（古沢元気塾）に積極的に参加し、事業所のアピールと共に介護相談会の開催などで、地域との繋がりを強めています。会の中で利用者の歌声を披露するなど、事業所周知に注力しています。	現在進行中の地域密着推進テーマが、結実することが期待されます。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナの影響により実施できていない。 今後コロナの状況を見ながら何か実施していきたい。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナの影響により実施できていなかったが8月より再開。今後状況を見ながら地域交流を進めて行く事となっている。	運営推進会議は町内会長・民生委員・家族の参加で、待望の対面会議を再開しています。事業所の見学や利用者の歌声を聞いてもらうなどの音楽レクリエーションに地域の住民を招待しています。柿生第3地区の民生委員から招待方法などの助言や応援を得て実現しています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	一般の職員は分かっていないが、新任管理者である事もあり、運営上の不明点等について川崎市に問い合わせをする事も多く、連携は出来ていると感じている。	川崎市の高齢者事業推進課へ積極的に相談するように努めています。運営指導や集団指導も受けています。介護保険の認定や区分変更について麻生区役所の高齢・障害課で行っています。片平の地域包括支援センターと連携しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的な研修とそれを踏まえたケアの実践に取り組んでいる。	事業所内連絡会の「こやまケア委員会」で、身体拘束委員会も開催しています。スピーチロック、ドラッグロック、フィジカルロックの3つのロックについて話し合いをしています。利用者の為にと思わず発してしまうスピーチロックについて「言い替え言葉」を学び実践しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	定期的な研修とそれを踏まえたケアの実践に取り組んでいる。職員間でも注意し合える関係性を維持している。	事業所内連絡会「こやまケア委員会」で、虐待の防止委員会を開催しています。職員の心身状態により虐待が発生する可能性が高くなると認識し、感情をコントロールするアンガーマネジメント研修も行っています。勤務状況に余裕を持たせるよう努めています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修で学ぶ機会は作っているが、活用できているとは感じていない職員意見が多かった。今後の研修について、より具体的な事例を盛り込む必要性を感じる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	実施できている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	実施出来ている。 日頃より介護記録にご家族様のコメントを入れられる運用をしている為、ご意見をスルーする事はないと感じる。	家族と情報共有できる電子カルテを導入しています。体調などをリアルタイムに把握できるようにしています。家族の意見も介護記録を通じて共有しています。ミキサー食を拒否する利用者、家族と相談してエンシュア食に替え、体調を取り戻した事例があります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	実施できていないとの意見。 今まで管理者代行ではあるものの他フロアの介護職に入る比重が多かった為、関りが少ないとの意見。今後は改善できる部分であると感じる。	敬老の日や誕生日会、駐車場が会場となるバーベキューなどを、行事担当職員が中心に行っています。1階の小規模多機能グループとの共同開催することもあります。部屋の入口に鈴をつけて、部屋からの出入りをさりげなく察知する工夫も、職員が考案しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	出来ていないとの意見。 職員同士がピリピリしておりやりがいも全くないとの意見もあり。 しかしながら、管理者としては個々の要望ではなく全体のバランスを見ながら整備していく必要性を感じている部分である。	管理者は行動指針を自らの行動で示すことで、事業所の一体感の創出に努めています。外国人職員と利用者が、互いの国の言葉を教え合うなど、楽しみながらコミュニケーションを築いていく場を作り、職場に馴染んでもらえるようにしています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	出来ていないとの意見。 研修はあるが参加していないとの意見。研修については参加のアナウンスもしているが、現在法人内他施設よりヘルプも貰っている人員状況で参加困難な事が多い現状。人員補充に取り組み改善していきたい。	年6回ずつの「感事災委員会」（感染予防・事故対策・災害対策）と「こやま委員会」で介護支援全般にわたっての研修及び訓練を行っています。現状では法人の他事業所からのヘルプ人材が多く、従来職員との融和と育成に気を配っています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	実施できているとの意見。 コロナの影響で法人内の事が多いが、様々な部分で連携しサービス向上に向けた取組みをしている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	実施できている。 しかしながら職員の力量やスキルの違いが出る事がある為、今後全体のバランスを整備していく必要ありと感じる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	実施できている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	実施できている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	実施できている。 ご利用者様の意見を第一に考えた支援を心掛けている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	実施できている。 ご利用者様、ご家族様の意見を第一に考えた支援を心掛けている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	実施できている。 コロナの影響で直接面会ではないが、電話等で関り続けられる様支援している。	人との関係や馴染みの場所への外出は、コロナ禍で制限をしていましたが、現在は面会は予約制にし、30分2人までの諸条件の中、可能となっています。昔懐かしい馴染みの音楽を歌い楽しい気持ちのなか安心してもらえるように支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	実施できている。 利用者同士のマッチングを考慮した配席実施、スムーズな交流の為の介入実施。 全員で参加できる体操等のプログラムも毎日実施している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	現場の介護職としてはサービス終了後の支援は行っていないとの意見であったが、施設移動等での退去の場合、移転後の情報提供等のフォローは都度実施している。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	実施出来ている。 職員主体の支援にならぬよう定期的な会議の中で検討を続けている。	意思表示が困難な利用者には入所時に家族から情報を得るほか、ケア場面での表情や拒否的動作などの反応をみながら、望むこと・嫌なことを確認しています。職員の日々の申し送りや月1回のフロア会議で共有し、よりその人らしい生活の実現を目指しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	実施出来ている。 日々の関わりの中で得た情報は個人記録に残し情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	実施出来ている。 日々の関わりの中で得た情報は個人記録に残し情報共有を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	実施出来ている。 日々の関わりの中で得た情報は個人記録に残し情報共有を行うとともに定期的な会議にてケアの方針を変更している。	電子カルテや介護記録により、利用者状況を職員間で共有する他、家族も確認・コメント返信が行えます。訪問診療医や訪問看護には来訪時に状況を報告し、対応相談をしています。介護計画は排泄ケア時の対応や水分補給の時間や量など、留意が必要なケア内容を利用者一人ひとりに対して記載し個別ケアの詳細がわかるようにしています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	実施出来ている。 日々の関わりの中で得た情報は個人記録に残し情報共有を行うとともに定期的な会議にてケアの方針を変更している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	実施出来ているとの意見。 しかしながら、既存のサービスの枠組みの中であると考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	実施出来ていないとの意見。 そもそも地域資源が何なのか分からないとの意見。 今後研修等を通じて学んで貰う必要性あり。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	実施出来ている。	訪問診療医が月2回、訪問歯科は治療が必要な人に対して月1～2回診療を行っています。外部受診の通院は家族対応になりますが訪問診療と外部受診のいずれかの選択が可能です。訪問診療医とは内服調整（減薬）や食事内容、看取りの対応など、個別ケアに向けた対応相談が出来る関係が構築できています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	実施出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	実施出来ている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	実施出来ている。	看取りの対応を行っています。管理者と訪問診療医が同席して、家族に丁寧に説明を行い、意向確認を行っています。「その人の最期の時間を一緒に過ごす」為に、看取りに関する研修の実施や医療職との連携により、職員の不安の軽減に努めています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	実施出来ている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	実施出来ている。	避難訓練は利用者也参加しています。歩行困難な利用者は車いすでフロア出口までの移動を行い、避難ルートを確認しています。備蓄品はフロアや屋外の倉庫に保管し、年1回確認の上、リスト化して管理しています。災害時対応マニュアルも作成しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	実施出来ている。	利用者の言動や表情を否定せずに受け止め、その理由を考えながら個別ケアに活かしています。排泄の声かけは他利用者に聞こえないよう配慮し、必要時にはトイレを「便所」と言い換えるなど、理解してもらえるよう工夫しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	実施出来ている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	心がけているが時間を気にして、職員都合を優先してしまう場合があるとの意見。人員不足が影響していると思われる為、人員の確保に努めたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	実施出来ている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	現在の利用者様の状況やコロナの影響で準備への参加は未実施だが、残存能力を活かして頂く様、片付けには参加して頂いている。	専任の料理人がいます。利用者の状態に合わせた食形態の調理や、嫌いなもの、アレルギーの代替え食にも対応しています。お重に盛り付けた行事食の提供や、敷地内でのBBQイベント、誕生日にはケーキを用意するなど、食事の楽しみを大切にしています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	実施出来ている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	実施出来ている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	実施出来ている。	トイレでの排泄が維持できるように、職員によるトイレ誘導の他、必要に応じて訪問リハビリマッサージを活用して足腰の機能低下予防を図っています。排泄記録で排泄パターンを把握し、下剤の使用を訪問診療医と相談する際にも用いています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	実施出来ている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	実施出来ていない。 定期的な入浴機会の確保の為、個人の希望ではなく、週間スケジュールに合わせて貰っている。	週2回程度、午前中に入浴を実施しています。入浴は1人ずつ行い、都度浴槽の湯の入れ替えをしています。浴槽入浴が困難な人には職員2名対応でシャワー浴介助を行っています。入浴中にゆっくり会話することで、利用者がリラックス出来る時間になっています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	実施出来ている。 夜間浅眠の方へのアプローチ等、記録に残しながら援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	実施出来ている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	実施出来ている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	実施出来ていない。 コロナの影響で日常的な外出支援ではなく、特別な場合のみの外出支援となっている。	依然コロナ禍の制限はありますが、新型コロナウイルスが5類になって以降は、家族との時間を大切にしてもらいたいという方針で、家族との外出、外泊、家族行事への出席を再開しています。コロナ収束後は花見や地域の飲食店への外食などの実施を検討しています。	地域との関係づくりの種まき活動が、コロナ禍が明けた後の利用者の外出活動の楽しみにつながることを期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	実施出来ていない。 未然のトラブルを防止するため、基本的に現金を持って頂いておらず、又コロナの影響もあり、外出し買い物を楽しめる状況も作っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	実施出来ている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	実施出来ている。	「生活の場」であることを意識し、イベント時の装飾は終了後すぐに片付けています。窓からの採光が十分あり、明るく清潔に保たれています。食事の席は気が合う利用者同志が同席できるよう配慮しています。フロア内温度はエアコン設定温度だけに頼らず、肌感覚で職員が都度調整しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	実施出来ている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	実施出来ている。	ベッドやカーテン、洗面台などが備え付けです。馴染みの家具の持ち込みや家族の写真など、その人らしい部屋づくりを行っています。カーテンを開け閉めする習慣がある利用者にはベッドを窓側に寄せ、利用者が行動しやすいよう家具の配置を工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	実施出来ている。		

事業所名	カーサしんゆりフランシア
ユニット名	3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えています。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	実施出来ている。 定期的な会議でも理念に基づいたケアを指導・実践している。 しかしながら、理念を把握していない職員もいる為、今後も教育が必要と感じる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナの影響により実施できていなかったが、4月よりご家族様の面会を再開、事業所での運営推進会議も8月より再開している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナの影響により実施できていない。 今後コロナの状況を見ながら何か実施していきたい。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナの影響により実施できていなかったが8月より再開。今後状況を見ながら地域交流を進めて行く事となっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	担当外で分からないとの意見。 運営上の不明点等について川崎市に問い合わせをする事も多く、連携は出来ていると感じている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	定期的な研修とそれを踏まえたケアの実践に取り組んでいる。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	実施出来ている。 アンガーマネジメントについても研修しており虐待はないと感じている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	実施出来ている。 認知症の方の尊厳や権利についても研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	実施出来ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	実施出来ている。 面会時や電話時に近況を伝えると共に要望を伺っている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	実施出来ている。 一部、管理者へ意見を伝えられていないと感じる職員もいた為、今後職員面談を含め意見を聞く機会を作る。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	実施出来ていないとの意見。 スタッフの人員不足による長時間労働の常態化がある。今後については人員確保が急務と感じる。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	実施出来ている。 しかしながら個々の職員の理解度に差があり、伸びない職員もいる。 現状について働きながらトレーニングしていける環境には無いとの意見あり。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	実施出来ていないとの意見。 しかしながら法人内で連携しての合同研修やイベント等、サービス向上に向けた取り組みをしている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	実施出来ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	実施出来ている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	実施出来ている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	実施出来ている。 QOLを落とさずに過ごして頂く為、残存能力を活かした生活を送れるよう配慮している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	実施出来ている。 特にケアコラボ（介護記録公開システムん）を利用してご家族様との橋渡しができるよう留意している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	実施出来ない。 コロナの影響による外出や面会の制限もあり、従来との関係性とは違ってしまっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	実施出来ている。 職員が間に入り会話して頂く事で利用者同士が仲良くなれるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	実施出来ている。 退所後の利用者についても施設移動等の場合には適宜情報提供等している。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	実施出来ている。 利用者の困りごとが何かを考えケアの見直しを行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	実施出来ている。 利用者の生活歴を考慮しケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	実施出来ている。 介護記録を活用し小さな変化を見逃すことなくケアにあたっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	実施出来ている。 フロア会議等で利用者の近況を話し合い、往診医等へも相談しケアに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	実施出来ている。 ケアの内容は介護記録等で情報共有しながら都度見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	実施出来ていない。 既存サービスのみの実施。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	実施出来ていないとの意見。 コロナの影響もあり地域に出ていないとの意見。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	実施出来ている。 往診医との密な連携体制により体調変化時の指示や内服調整等をスムーズに行わせて頂けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	実施出来ている。 訪問看護との密な連携により体調変化時の指示や日々のケアへのアドバイスを頂けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	実施出来ている。 病院のSWと入院中や退院前の情報共有や退院準備における話し合いも行えている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	実施出来ている。 ご家族への説明時に往診医にも介入して頂く等し、ご家族様にとって納得度の高い方法を選択して頂いている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	実施出来ている。 研修等で様々な場面に合わせたシュミレーションを実施している。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	実施出来ている。 避難訓練等、適宜実施している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	実施出来ている。 研修を行い、利用者の尊厳を重んじたケアを行なっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	実施出来ている。 自由意志での決定が出来るような声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	実施出来ている。 1人1人に合わせたケアプランに沿ってケアを実践している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	実施出来ている。 季節に合った服装や身だしなみのお手伝いさせて頂いている。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	実施出来ている。 普段の食事でも旬の食材についての話題等提供し楽しく食事が出来るよう対応している。 年中行事の際には行事食の提供もさせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	実施出来ている。 量や形態を個々に合わせて変更している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	実施出来ている。 毎食後全員実施している。 訪問歯科にかかっている利用者については口腔状態も情報共有し対応している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	実施出来ている。 ベッド上オムツ交換の方やバルーンを除き、個々の排尿タイミングを考慮し、適時トイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	実施出来ている。 食事や水分量を記録し、水分不足にならないようにしている。便秘傾向の方については往診医と連携し下剤の調整を行っている。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	実施出来ている。 ある程度職員都合でのお声掛けにはなるが、拒否される方もおらず、1対1での会話を楽しんで頂きながら安全に配慮した入浴を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	実施出来ている。 眠そうな場合には無理をせず居室でご静養頂く対応を取れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	実施出来ている。 往診医、訪問看護、薬剤師と連携を取りながら対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	実施出来ている。 レクリエーション、行事食、茶話会等を実施。洗濯物畳みや食器拭き等も個々の能力に合わせて参加して頂いている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	実施出来ていない。 コロナ渦であった為、制限をかけていた。現在はご家族様との外食等を再開し始めた所である。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	実施出来ていない。 未然のトラブル防止の為、金銭の持ち込みは遠慮いただいている。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	一部実施出来ている。 ご本人様から希望がある方については実施出来ている。スマホをお持ちの方についてはTV電話の接続等の支援もしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	実施出来ている。 毎日午前午後夜間と基本的には3回の掃除と消毒を実施している。 年中行事の際には折々に合わせた装飾を幼稚になるぬよう配慮しながら行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	実施出来ている。 リビングにソファを2台設置し、食事の席以外でも思い思いにお過ごし頂けるよう配慮している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	実施出来ている。 居室内については利用者様の好みとなるようご家族とも相談し本棚や写真、お花等、自由に使って頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	実施出来ている。 フロア内はバリアフリーになっており、手すりも随所に設置されている。 しかしながら、認知が進んだ方にはトイレの表示が分かりづらい等の課題も出て来ている。		

2023年度

事業所名 カーサしんゆりフランシア

作成日：2024年 3月 8日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	現在進行中の地域密着推進テーマが、結実することが期待されます。	地域で開催されるイベントや行事に施設の利用者や職員が参加できる	地域住民との交流を促進するため、施設の情報発信を積極的に行い、地域のイベント情報や施設の取り組みを回覧板や会合などを通じて発信し、地域住民とのコミュニケーションを強化します。	5ヶ月
2	21	地域との関係づくりの種まき活動が、コロナ禍が明けた後の利用者の外出活動の楽しみにつながることを期待します。	職員を適正人員まで増員し、余暇的なプログラム支援を日常的に行うことができる	閉鎖する小規模多機能事業所より人員異動を行い、適正人員を確保する。	2ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月